

# - 1 . アジアにおける統合・代替医療の実態

## Complementary and Alternative Medicine in Asia

<b>キーワード</b>	統合医療、代替医療、アジア、中国、韓国、インド、台湾
<b>Key Word</b>	Integrative Medicine, CAM , Asia, China, Korea, India, Taiwan

### 1 . 調査の目的

アジア諸国における統合・代替医療の実態を明らかにすべく、中国、韓国、インド、台湾の現地調査を実施した。なお、この調査は、平成19年度厚生労働科学研究費「統合医療による国民医療費への影響の実態把握研究」(研究代表者:京都大学西村周三)の一環として実施されたものである。

### 2 . 調査研究成果概要

#### (1) 韓国における統合・代替医療の実態

韓国の伝統医学は古代中国医学にその源を発している。近代に入って日本の影響を受け、「漢医学」または「東洋医学」と呼ばれてきたが、1986年法律が改正され、「韓医学」に正式に決められた。「韓医学」は韓国の歴史、文化、慣習、伝統などに影響を受け、特に東洋医学の中で鍼灸学は隣国である日本、中国とは相当異なる制度と伝統を持ちながら発展してきた。それに、韓国人の東洋医学に対する認識は「一鍼二灸三薬」という言葉があるほど鍼灸術を第一の治療方法として依存する傾向が非常に高いと言える。

韓国の医療制度はいずれも教育課程が6年間である西洋医学と東洋医学という二本立て体制で、この二つの医療制度は互いの排他性を尊重しながら、共存するシステムを長い間保ってきた。そのため、一般に医師 (medical doctor) といっても漢薬と鍼灸術を使って患者を診ることはできず、韓医師も洋薬を使うことができない。

#### (2) インドにおける統合・代替医療の実態

インドでは、西洋医学による医療だけではなく、伝統医療の診療所も多数あり、貧困層の多くが通っている。イギリスによる植民地支配の際に西洋医学がインドにもたらされたが、それ以前から今日では伝統医療といわれる様々な医療が行われていた。

現在でもこれらの療法はインドにおいて根強い支持があり、盛んに行われている。伝統医学の種類としては、アーユルヴェーダ、ヨガ、ナチュロパシー、ユナニ、シッダ、アムチなどが存在する。

また、近年の動きとして極めて興味深いのは、メディカルツーリズム(医療観光)のメッカとしてのインドである。インドの庶民向けの公的病院の状態は劣悪であるが、最先端の民間病院は先進国のそれと比べても全く遜色はない。しかし、医療費は先進諸国の3分の2ほど(保険適用なしに換算して)であり、それを生かして、インドで最先端の治療をうけるためのメディカルツーリズム(医療観光)がインド政府観光局を中心にプロモートされている。自国で手術の待ち時間に耐えかねてインドで治療を受ける患者、自国で保険が利かない手術なので安くインドで受ける患者、また自国よりも高い医療技術を求めて治療を受ける患者が年間約15万人ほどインドにやってくる。今までは西洋医学の治療がメインでメディカルツーリズムは行われてきたが、Medicity(図1)の出現により、今後は西洋医学の治療と共にメディカルツーリズムのサービスにインドの伝統医学による治療が加わって行くと考えられる。



図1 インドの未来型医療拠点 Medicity の完成予想図

### (3) 中国における統合・代替医療の実態

中国の伝統医療としては、中国には漢民族の中医学やモンゴル族のモンゴル医学、チベット族の蔵医学、ウイグル族のユナニなどがある。特に公的な医療として、中国には西洋医学の病院に並んで多くの中医学病院がある。そこで働く医師は、中医学医師として大学教育を受け、中国政府による国家資格を持つれっきとした医師である。

確かに、中医学を始めとした、中国の伝統医学教育は、教科書の内容や教育の質に対する評価、学生達の卒後進路と中国の中医学と関わっている資格制度、大学教育と従来の師弟伝承との関係又は比較、中医学の大学教育における問題点など教育関連の課題は実に多いが、中国では、自国の伝統医学を貴重な医療資源と捉え、質の高い整備された伝統医学の医師を養成する教育機関を構築している点が明らかに日本との大きな違いである。

### (4) 台湾における統合・代替医療の実態

近年、台湾でも健康への関心の高まりから、消費者が自ら健康維持・向上への取り組みを行うようになっており、健康維持・向上のためのさまざまな商品・サービスが提供されるようになってきている。特に台湾では、相補・代替医療の中でも、昔から人々に使われてきた、伝統医学である中医学や中医薬由来の保健食品や健康食品、またそれらの影響を受けている日用食品が多くの国民に利用されている。

また、台湾政府は、健康食品の開発研究や中医薬の新薬の研究開発に力をいれている。産業面では、台湾政府は中医薬を自国の医療及び産業資源として捉え、発展させることを目的に、行政院衛生署中医薬委員会を設置し、国策として中医学の研究に取り組んでいる。

台湾の伝統医学は、政府と企業との密接な提携の基に、伝統的漢方医学の知恵を生かしながら、現代医学の知識のみならず、現代科学の技術も取り入れ、中医学は外来診療のレベルから、入院診療のレベルにまで拡大している。また、政府は中医学研究施設を中心に、産業の面からも中医薬の新薬の研究開発に着手し、台湾の中医薬の新薬や健康食品を世界に進出させようと試みている。